



洋書輸入協会会報

Vol. 26 No. 7 (通巻302号) 1992年7月

洋書輸入協会懇親旅行—熱海

おまんじゅう、干物、スッポン強精ドリンクの目立つ駅前のお土産屋のアーケードを抜け、左に曲ってお宮の松まで下る落差の大きい坂道は、雪の積る田舎であれば絶好のスキー回転コースになる。海に迫った温泉宿の裏に屋根の低い小さな家が重なっていた。湯垢で錆びた温泉のパイプがその脇を走っているが、年を経て草臥れた色は単純にカメラに納めても再現されない。錯綜した配管の曲り、ハンドルを取り外された、あきらめに似たバルブは絵になるのだが、ひと休みせず幹事は先を急がねばならない。協会の柴田さんがホテルで待っておられる筈である。横断歩道橋を選ぶ以外に渡る方法の無い熱海の海岸へ出たが、靴の中に砂が入る。貫一の下駄でなければ快適とは申せない。美に対して繊細な日本人が醜に対して驚く程の鈍感を結集して構成した温泉街であるが、ネクタイを外し、浴衣で遊ぶに適した都市デザインとも云えるようだ。

熱海港の舟着き場でタクシーを拾った。此処まで来ればアカオホテルまで僅かな距離の筈であるが、残りは総て急坂、頂の暗く細いトンネルの中で車に接触しては楽しい旅も無になると、距離より安全を買った。

ホテルはロビーが17階で部屋も宴会場も浴場も階層の数字が若いから、エレベーターのボタンを押すのに一寸

した戸惑いがあった。テニス組が着き、やがて6時15分。宴会を開いたところへゴルフ組が合流した。東亜ブックの鶴さんの連絡通りの時刻であった。近年、協会の旅行の参加者が少いように云われるが、お座敷に整然と並んだお膳を前に、一方を開いて三方を固めた並びは三十三名、適切な人数であった。理事長代理丸善の関根取締役役にご挨拶を頂く。

綺麗どころのお酌でビール、酒、ウイスキーのピッチが上がった。洋書を扱う一同であるから、外国旅行は常のことであろうが、西欧各地では味えぬ温泉と浴衣の満足度を十分に味った。カラオケの曲が参加者の年令相応であったのは、このホテルの家族向きの趣向であろうか。各部屋の冷蔵庫はご持参のものを冷やして召上り下さいという親切な配慮というが、中に1本のビールも無い空の状態は単身軍団の一同には評判が悪かった。風呂から上がって一杯の気分が味えぬ。幹事が翌朝の会計事務を簡素化した陰謀ではないかと勘ぐられた始末。

波の音、松の枝振りと翠、ホテル周辺の景色がよい。この旅行から帰宅した夜、テレビのミステリー画面にこのホテルの庭が写っていた。プロも写欲をそそられるアングルが多いということであろう。

(1992. 6. 5—6 洋販 栗原 記)

洋書輸入協会懇親旅行	1
理事会報告	2
JBIAへの手紙	2
洋書輸入協会史(71)	3

訂 正	4
続・私の洋書こぼれ話	5
うちの会社	6
海外ニュース	6

おしらせ	6
東京の坂と橋と文明開化(4)	7
広 告	8

理事会報告

5月14日(休)

(一) 4月分収支計算・予算対比表

5月8日(金)総務委員会での検討にもとづく神田俊二氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 定時総会

本日午後2時より学士会館(本郷)にて開催する定時総会の議事進行その他の運営について打ち合わせを行った。

(三) その他

5月26日(火)

(一) 定時総会報告

事務局作成の1992年度定時総会報告を、一部修正追加し承認した。

(二) 委員会の編成替え

役員改選後の委員会の編成替えにあたり、委員会組織の改変その他について総務委員会に諮問することにした。

(三) 選挙管理委員会より、今後の役員選挙のあり方に関連して、現行の協会規約および役員選出規定の改訂への提言があったが、特別委員会を設けて審議することとした。

(四) その他

JBIA への手紙

1991年4月から1992年3月までに、世界各国、41社より49通の手紙がJBIAへ寄せられました。

地域別に見ると、アジア、アフリカ、中近東、東欧など発展途上の国々からの照会が目立ち、出版物以外の商品について等、見当はずれの内容のものもありますが、各国各社の日本市場への進出をはかろうとするその熱心さに、今日の世界情勢を垣間見るような気がします。

内容的には、例年と変わらず、そのほとんどが自社出版物の宣伝とプロモーションのために、日本の配給会社とのコンタクトを望むといったものですが、翻訳業者の紹介を要求しているものや本の注文などの内容もありました。また、特に今年度は、国際ブックフェアの案内が広告会社、大使館より3件寄せられ、各国の出版業界のブックフェアへの高まる期待を感じさせられました。

これらの照会に対し、JBIAは、必要と思われれば、折り返しダイレクトリー、またはメンバーリストを送付し、或いは関係筋を紹介しますが、その後のことは全く関知致していません。しかしながら、ただそれだけの対処でも、ネットワークを持たない海外の小規模な出版社にとっては、大変役立つ情報であるに違いない、と確信しております。そういった意味で、JBIAは日本での市場開拓を目指す海外の出版社にとって、日本の窓口としての役割を十分に果たしていると思います。

データ

差出人の業種と手紙の主な内容

手紙の内容

研究機関	5	アンケートなど
出版社・配給会社	20	日本市場への進出
広告会社	2	ミラノ・ロンドンにて開かれるブックフェアについて
大使館	1	ニューデリーにて開かれるブックフェアについて
個人	1	ナイジェリアより、希望する本の入手方法について
出版物以外を取扱う商社	12	

地域別

アジア	6
中近東	6
アフリカ	11
北米	8
中南米	2
西欧	7
東欧	1

(詳細)

香港	1	韓国	1	日本	1
インド	3	バングラディシュ	2	パキスタン	1
イラン	2	シリア	1	ナイジェリア	11
アメリカ	7	カナダ	1	プエルトリコ	1
コロンビア	1	イギリス	4	ドイツ	2
イタリア	1	ハンガリー	1		

(渉外委員長 山川隆司)

洋書輸入協会史 (71)

洋書輸入協会顧問 相良 廣明

79 返品とクレジットの問題 (前号よりの続き)

79.3 対策小委員会の発足

昭和 35 (1960) 年 8 月、輸出先への返品とこれに伴って生ずるクレジットの処理に不備があると、通産省より指摘を受けた件につき、業界として早速検討を始めた。

8 月 17 日に、理事会メンバーはそれぞれ通関担当者を伴って会合、クレジット発生の原因、現状の問題点などをつぶさに検討、対策案が丸善の木下氏より出され、それを基として 2 つの案を作製した。今後は通産省と折衝を続けながら、実行出来る案へと練り上げていくこととしている。

9 月に入ると、東京税関外郵出張所長より、外国雑誌の事後通関の原則を徹底して、ライセンスの期限を 1 年から 1 年 4 ヶ月程延長し、該当外雑がすべて到着してから通関手続きをすべきではないかという問題提起があった。

これらの二つの問題を総合し、検討を深めるため、対策小委員会を設置することとし、9 月の協会懇談会には、東京税関の係官 6 氏の出席を要請して、意見の交換を行っている。そして 10 月には、この懇談会で或程度の諒解が得られたと思っていた外雑のライセンス期限と事後通関の問題で、窓口で続々と書類が突き返されるなどのハプニングを交えながら、小委員会はこの二つの問題の解決のため、通産省と東京税関との折衝を続けた。

10 月末には、「返品とクレジット」の問題と外国雑誌通関の問題は切り離して処理することと決め、前者についての対策は、8 月の案を更に練ったものが丸善木下氏、海外出版市川氏によって提出され、何度も小委員会、理事会を開いて検討して次第に具体化されていった。

79.4 返品とクレジットについての業界としての要望書を作製、通産省へ提出

会合を重ねて検討した対策案は、これを要望書として次のようにまとめ、理事会及び小委員会でこれを携え、11 月 8 日に通産省へ提出、輸入第一、二課と懇談、説明と陳情を行った。

記

返品とクレジットについて

書籍及び定期刊行物のクレジットに対し、現在並びに将来の取引事情を種々検討の結果、下記の通り実施方御承認賜り度く、御審議の程御願い申し上げます。

(1) クレジット金額を、次の注文による勘定と相殺する場合の外貨債権回収免除許可申請、並びに標準外決済許可申請手続きを不要とする。

(2) 返品に対する処置は、税関と協議の上簡便な方法を決める。

以上は申すまでもなく、現行の法規から見ますとその管理を全く廃止する結果となりますが、以下御説明申し上げます理由により、御諒解されますことを切望するものです。

書籍及び定期刊行物については、クレジットの多くが返品によって生ずるものでありますが、生じたクレジットに対し発行される輸出者のクレジット・ノートは、書籍の国際的な商習慣により、信用と将来に亘る継続取引を前提とした場合のみ発行されるものであり、輸入者にとっては、クレジット・ノートを取得することによって輸出者に対する貸勘定の確認となり、その勘定は次の注文により必ず相殺される習慣となっております。

何故クレジットは相殺されなければならないかと申しますと、書籍の次のような特殊性によるものです。

イ、注文を出しても未刊、品切、絶版のものがあ、送料見積りが困難なこと、又後述の新刊配本などにより、送り状金額が推定出来ない。

ロ、ストックのためのもの、客注によるものなど、注文が極めて頻繁に出る。

即ち、書籍の取引にも前払金により一回の発送で輸入が終るといふ単純なものも御座いますが、後払の方式によるもので上記の様な状態の場合、輸出者は現物を郵便で頻繁に発送し、送り状もその枚数が多くなります。

それらは契約により支払時期が若干異なりますが、多数の送り状を一括した計算書を定期的に送付し、それに対して送金するか、計算書を付した取立手形が振り出されます。即ち決済金額が確実に判明しないので、計算書

を入手するまでは輸入承認証を取得出来ない場合が多い訳です。従って、輸入承認証を取得するときには、既に次の注文が出されており、現品も供給されつつあるので、事実上前回分の債権は確実に回収されていると考えられます。返品をした時にクレジットは未払勘定から差し引き、返金されないのが国際的通例です。

クレジットが主に返品により生じることは前述の通りですが、最近海外の出版社より委託販売とは性質を異にした取引で返品を許容する提案が多く、これは新刊配本と称するもので、新刊書が発行される都度、輸入者側の注文を受けることなく一定取り決め部数を発送して、売れ残った場合は返品を認めるというものです。一見委託販売の如く思われますが、供給されたものは預り品ではなく輸入者の買取勘定に入るもので、新刊配本以外の主体となる通常の注文があるため、返品に対しては、その注文取引勘定からクレジットとして差し引く方法がとられる訳です。この方法は官庁、大学図書館等の需要者側の新刊書を一刻も早く入手したいという希望を満たす上、円滑に返本することによって外貨を節約する結果を得ることも出来ます。

その外、返品としては落丁による交換のための返本、又買取品を交渉により返品するなど委託品以外の商品を返品するという特殊な面があり、更に各号毎に販売する雑誌についても返品が認められているのは、内外を問わず商習慣として行われております。

輸入者にとって有利なこの方法が可能であれば、今後の取引に相当の返品が予想され、その個々の金額は小額であります。件数としては膨大なものになりますので、取り扱いについて特別の御措置を御願い申し上げる次第です。

書籍については更に、返品のみならず次のようなクレジットを生ずることがしばしばあります。

- (1) 落丁及び破損品のクレームに対し代替品がない時。
- (2) 前払にて数種の本を注文し、一部分品切の時。
- (3) 多数の本を注文し、特別割引が生じた時。
- (4) 送り状数より到着数が不足し、出荷人に品切れの時。
- (5) 出荷人が送り状数より多く送附し、到着後返品しその送料出荷人持ちの時。
- (6) 注文数より多く送附され、日本国内の業者に転売した本の価格と送料を出荷人持ちの時。
- (7) 定期刊行物の中途解約(例えば廃刊)によるもの。

(8) 計算違いの送り状分に対してのクレジット。

以上概略を述べましたが、これらあらゆるクレジットを現行法規に従って取り扱うとすれば、平常の業務に支障を来す煩雑が予想されますので、特別の御配慮御願い申し上げます。

改訂希望事項

(1) 昭和 34 年 3 月 18 日付通産省輸入注意事項第 11 号(34 通局第 471 号)「輸入に伴う外貨債権の回収免除等の許可について」三、(5)の B の事項は書籍および定期刊行物については除外する。

(2) 昭和 35 年 4 月 28 日付輸出注意事項 35 第 3 号(35 通第 1873 号)1 の(5)「取換え又は交換のため返送されたる輸入貨物」の税関における輸出手続は簡素化する。(以上)

上記の要望書全文を長々と記録したのは、厳密に規定通りに解釈すればやらなければならない手続きを、あまりにも微細な金額が多くて煩雑極まりないために、潜ったままにしている現状を前提とし、実際には規定と実情とのかい離が甚だしく、規定通り実施することは不可能だということを叫びたいところを抑え、綿々と事情を述べ、柔かに規定の改正(管理の撤廃)を申し出ているこの要望書作製上の苦心を、知って貰いたかったためである。

11 月 8 日の懇談の後も、小委員会の検討、通産省との折衝は続けられ、一応の展望を得ることが出来た。小委員会はこれに基づき改正手続き案を作り、12 月 7 日にも通産省を訪問して、折衝の間に提示された「検印用返品リスト」のフォームなどを相談している。そして厄介な「返品とクレジット」の問題にも一応の展望を持つことが出来たので、理事会としては、12 月 9 日に懇談会を開催しこの経過を報告した。なおここまで到達出来たのは、通産省の宮嶋氏を始めとする係官の理解と、問題解決への意欲に力付けられた所が大きい。(続く)

訂正

前号(1992年6月号)第6頁に掲載の「書籍展示の会のお知らせ」の期間が、1991年後半となっておりますが、これは1992年後半の誤りでした。お詫びいたします。

続・私の洋書こぼれ話

服部正喬

俳国際書房会長

—医学文献 Excerpta Medica のこと—

1959年だと思うが Excerpta Medica Foundation の Director の Warren 氏を迎えて、帝国ホテルで盛大な歓迎会を開いた。吉田先生、小川先生、内村先生をはじめ我国医学界の最高権威をあつめた豪華な会合であった。其席上、同氏は“世界の医学研究の暗黒の地域(dark spot と云はれたように思う)はソ連、日本、中国の三国である。この中ソ連は、既に自分たちが紹介し始めている。中国は今後の分野で、今は日本の医学の紹介の番である。日本は貴重な多数の研究が発表されているに拘らず言語の障碍のために世界の学界には知られていないものが多数あるのは残念に耐えない。Excerpta Medica は、皆様の協力によって Abstracts を作って頂いて、夫を世界に紹介することによって世界の医学界に貢献したい”と述べた。夫に対し自分は“日本に科学、殊に医学が1820年代に紹介され始めたが、其紹介の恩人はオランダであったが、今回はその紹介された科学医学の130年間の生長の後の現状を言語の障碍をのりこえて、大量に世界に紹介されることによって、再びオランダは日本の恩人になりつつある”之に対し私共は“すぐれた Editorial Board を構成し、よい Abstract を多数に送ることによって報いたい”と挨拶した Editor 陣の豪華なことについて又吉田先生小川先生がよく外人に応接されたことについて Warren 氏は喜んでいて、Abstracts of Japanese Medicine が発行されると、National Science Foundation から同所の援助規定が各 Editor に送られ、夫によって、其後研究助成金を受けられた向きもあるように聞いている。兎に角アメリカの医学界と我国の医学界とが急に身近になったように思われる。

Japan Editorial Board は1960~1968に約40,400の Medical Abstract を Excerpta Medica Foundation に送った。

—第二次世界大戦後輸入再開の頃のこと—

1948か1949年頃と思うが、11月22日の図書新聞に、British Mission を通じて、英国書の輸入が開始する旨の記事があった。理事会でも大きい問題になった。私共は British Mission に行き、詳細をきき会員相互に連絡し

合って輸入書の注文の運動をした。そのクリスマスに British Mission の Information Councillor の Vere Redman 氏に何か Christmas Present を持って御礼と挨拶に行く予定だったが、ところが図らずもクリスマスの朝、前夜我国の戦犯処刑が執行された旨ラジオで報道されたので見合せ、翌年1月7日 Redman 氏を訪問して御礼を言上した。同日私は、この日本への輸出を議会で強力に主張された George Allen and Unwin の President の Sir Stanley Unwin に長い感謝状を書いた。

「10年間の Cultural Isolation の後に、日本に英国学術文献を送る様議会で力説し、夫を実現させ、戦後いち早く日本人の渴望をいやし復興に協力応援努力した Unwin に対し “You will be long remembered by us as a benefactor of Japan at the critical moment of her cultural history” 」としたものだ。Unwin 氏はアメリカ旅行中だったので大分あとで礼状が来た。当時の私は西洋出版文化の援助なくして、我国の将来がどうなるだろうという心配が強く頭の中を支配していたので Publisher's Weekly にのっていた Japanese without English Books are misery……とか何とかいって、日本への書物の輸出の早急の実現を強調した Unwin 氏の熱情に強くうたれていたのだ。

米国からの輸入が出来るようになると、私は直に John Wiley & Sons の Sullivan 氏に発状して取引開始の申入れと割引率の照会をした。折返し同氏から日本への取引政策はまだ定まっていないから割引率の話は出来ないとやってきたから、私は直ちに日本の通産省 MITI の政策は GHQ の政策に添って Anti-Monopoly Doctrine 及び外国為替に付いては割当政策 Allocation Policy が実行されている故になるべく多くの書店に取引を開放した方が得策だと思ふ旨述べたところ、直ぐに割引率を定めてきた。戦前とても取引を許されなかった米国の書店と漸く取引が出来るようになった。

又 Georgell Harding から Economic Journal の Back Number をいくつも輸入したり Wildy から Law Reports 1865-1940 605 Vols を輸入して極く安い65万円で購入したりした。一つ話の様な安い値段だった。

—音楽の世界で40年—

 アカデミア・ミュージック株式会社

1947年（昭和22年）に「葵書房」の商号で東京の杉並区で古書籍業としてスタートした。ごたふんにもれず半分は竹の子生活を反映しての事でした。

創業者は平岩林氏で戦前、戦中はライブチッタのグスタフ・フォック社（本誌「輸入協会史」の中にも顔を出しています）で書籍を扱うことに慣れていたことがきっかけのようでした。

古書籍業の中でも楽譜を扱う書店はなく評判を呼んで音楽の専門になっていた。

書籍の輸入が再開されてからは一気に専門化が進み1952年（昭和27年）に中井喜代治氏と共にアカデミア図書株式会社を設立、1973年（昭和38年）にアカデミア・ミュージックとアカデミア洋書に分離独立して現在にいたっています。

社名のとおり音楽（クラシック関係が中心で）の分

野で全国的に営業を展開して来ました。

実用譜を中心にスタートをしてその後枠を拡大して作曲家の個人全集、叢書、音楽辞典、単行本等を手掛け現在ではその部門ではそうとうのノウハウを持っていると自負しており大学設置、資料充実のお手伝いさせていただいております。

昨今、情報化時代が急激に進行する中で音楽の分野は取り残されているのが現状ではないかと思います。OCLC等のデータベースによれば世界中で出版された音楽資料は数百万点とのことですが、日本ではその情報もなかなか把握できないのが現状のようです。

当社では何とか音楽の専門家、愛好家に少しでも多く、早くその情報の提供を出来るようにしたいと努力をしています。

海外ニュース

英国書籍売上6.6%増、
一般書売上5.6%増を記録

英国出版社協会の調査によると、1991年度の英国出版社による国内書籍売上は前年比6.6%増を示し、同期のインフレ率5.85%を若干上回る実績であった。

英国の深刻で長期的な景気後退を考えると、この数字はかなり満足すべきもので書籍販売が他の小売部門に比べ健闘したことを示している。これまで不振を続けた教科書市場では新たに導入された全英カリキュラム用の教科書の購入に教育科学省による1500万ポンドの補助金が当てられ、書籍売上全体を押し上げた。この補助金により学校教科書部門は18%増の成長を示した。

一般書の売上は、一般消費の伸び4%を上回る5.6%増（インフレ率とほぼ同じ）、学術専門書は、5.1%増であった。

1991年の書籍売上は良好だったものの、英国出版者協会の Clive Bradley 理事長によると英国出版社の継続的な不振の要因は変わらず、次の3点に帰することが出来ると

している。

- (1) 英国出版社の売上にとって重要な輸出市場がUS\$を含む各国通貨高に対し高となった。
- (2) 英国出版社が金利、書店からの取引条件の要求、著者への高額なアドバンスなどのコストアップの影響を受けている。
- (3) 公共図書館市場が引きつづき不振を続け、特に良質の新刊フィクションの売上に深刻な影響を与えている。

—P.W. 4月27日号から抜粋—

おしらせ

5ページ掲載の「続・私の洋書こぼれ話」は、昭和43年9月号（Vol. 2, No. 9）から昭和44年1月号（Vol. 3, No. 1）まで、5回にわたって連載したものの続きです。全文ご希望の方は（株）国際書房 Tel. 03-3292-4951 までお申込み下さい。

日本の近代化にとってオランダ商館の果たした役割は大きい。商館が唯一の海外交易の窓口であったというばかりでなく、商館長や商館付医師から新しい知識がオランダ通詞や蘭学者に伝えられ、それによって日本に西洋の学術が扶植されていった。彼ら商館員で例えば『日本誌』によって初めて正しい日本の姿を西洋に紹介した E. ケンペル、桂川甫周や中川淳庵などに医学を教授するとともに日本の植物をリンネ（スウェーデンの博物学者で植物の分類体系を確立）の体系で分類した『日本植物誌』の著者 C. P. トウンベリー（1775年＝安永4来日）、蘭和辞書『ズーフ・ハルマ』を編纂した H. ゴーフ商館長、日本の英学の基を開いたヤン・コック・ブロンホフ商館長などの功績は際立っていたといえる。しかしここでは、既に多くの研究や紹介が公刊されているが、矢張りシーボルトについて一通り触れてみることにしたい。

1796年ドイツの名家に生まれたシーボルト（Philipp Franz von Siebold）は、27歳のオランダ商館付青年医師として1823年（文政6年）に着任した。赴任に際してはオランダ政府から日本の「萬有学的調査」（総合的科学的調査）を命じられ、幕府の特別の計らいにより着任して間もなく長崎郊外に医療施設「鳴滝塾」を開設して、病人の治療に当たりながら塾生を養成、教育して西洋医学の普及に尽力した。最新のドイツ医学を身につけた彼の医療で幾多の難病が平癒して尊崇を集め、その評判を慕って全国から蘭学者や蘭方医が蟄集し門弟になった。その中には高野長英、伊東玄朴など既に名を成している俊英が大勢加わっている。1826年（文政9）、時の商館長デ＝ストゥルレルの江戸参府に随行し、江戸滞在の40日程の間に桂川甫賢、大槻玄沢、最上徳内などの他幕府の侍医や天文方が連日訪れて西洋の新知識の吸収を図ったが、同時に彼は医術の講義や治療・手術などの実技を披露した。この時新知識の伝授と交換に贈られた資料がやがて「シーボルト事件」を引き起こす結果となる。

1828年（文政11）シーボルトは任期が終り帰国の途につく。その時折あしく来襲した暴風雨によって彼の乗船予定の船が座礁し、幕府の目をかすめてまで収集した彼のコレクションに禁制品が含まれていることが発覚する。

この「シーボルト事件」に多くの蘭学者が連座し、50数名もの処罰者を出す大事件となったが、幕府天文方高橋作佐衛門（景保）は I. F. クルーゼンシュテルンの『世界周航記』と交換に蝦夷・樺太の地図を渡したことが罪に問われ、入牢中に死亡して死体は塩づけにされた後死刑の判決が下される。幕府奥医師土生玄碩が散瞳薬の処方教わるため葵のご紋付き帷子や小袖を贈って処罰されたことは前回に述べたとおりである。またシーボルトに協力して洋風の手法で写生画や風俗画を描いた長崎出身の絵師川原慶賀も事件に巻き込まれ、入牢の上「叱り置」の処分を受ける。そして当のシーボルトは「国禁」（追放）を申し渡されて日本を去る。

シーボルトが苦心惨憺集めた資料の種類、数量は驚く程膨大なもので、それらはヨーロッパ各所に散在して全貌を把握することは困難であるという。彼は帰国してからその資料を基にして3大著作を著す。『日本』は日本を総合的に記録・記述した日本研究の不朽の名著で、分冊で1832年より自費出版の形で刊行開始され1858年に完成する。ペリーが日本への航海の前1年程の間おこなった日本研究ではこの本に負うところが大きかったといわれている。『日本植物誌』は1835年より1870年にオランダ国王保護の下にライデンで刊行されたが、これには持ち帰った多数の植物図のうち150図だけしか含まれなかった。昨年秋サンクト・ペテルブルクのロシア科学アカデミー・コマロフ植物研究所に所蔵されていた981点の植物図が発見され、日露共同編纂で近く丸善によって出版される計画である。『日本動物誌』は同じくオランダ国王保護の下に1833年から1835年にかけてライデンで刊行された。これも全絵図を収録したものではなかったが、全5巻のこの大著は世界における動物学の重要な基礎文献として評価の高いものである。

シーボルトは日蘭通商条約締結の年1858年（安政5）に追放が解かれ、翌年「青春の思い出の国」（板沢武雄『シーボルト』）日本を再訪する。そして幕府の外交顧問として重用されたが、信任があまりにも厚かったことが災いして内外から嫉まれることになり、それが原因で解任され滞在延期の希望もかなわず1862年日本を去る。

A new, monumental, full-color
clinicopathologic reference in two volumes

《胃腸病理学総合テキスト》

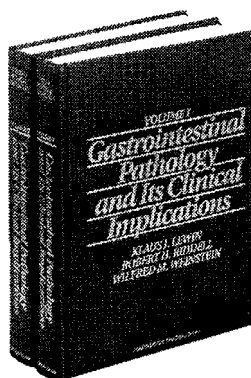
Gastrointestinal Pathology and Its Clinical Implications

By:

Klaus J. Lewin, Robert H. Riddell,
& Wilfred M. Weinstein

■胃腸病理学の新しい総合テキスト。病理学の実践的側面、即ち生検と肉眼標本の病理学、臨床と病理の相関、鑑別診断、患者管理との関係などに焦点を合わせる。本書の3人の著者のうち2人は臨床面に強い関心を持つ病理学者であり、1人は内視鏡の豊富な経験を持つ胃腸病学者である。現代胃腸病理学のあらゆる問題を取り上げ、胃腸病に対し臨床病理学的アプローチを行なっている。

■全2巻構成で、大型の顕微鏡写真、肉眼写真、電顕写真、内視鏡写真を2,200点以上収録しており、うち約2,100点はカラー写真である。参考文献も充実しており、1991年度のものまでを収めた。



2 vols. 1,395 pp. with figs. 1992 ¥54,800

Contents (Summary):

Part I. Techniques 1. Dialogue, Handling of Biopsies and Resected Specimens **Part II. Diseases with Common Features Throughout the Gastrointestinal Tract** 2. Vascular Disorders 3. Radiation Injury 4. Immunodeficiency Disorders 5. Lymphoproliferative Disorders 6. Endocrine Cells 7. Neuromuscular and Neurologic Disorders 8. Mesenchymal Tumors 9. Gastrointestinal Manifestations of Extraintestinal Disorders and Systemic Disease **Part III. Esophagus** 10. Normal Structures, Developmental Abnormalities, and Miscellaneous Disorders 11. Inflammatory Disorders of the Esophagus 12. Polyps and Tumors **Part IV. Stomach and Proximal Duodenum** 13. Normal Structures and Developmental Abnormalities 14. Stomach and Proximal Duodenum 15. Peptic Ulcer Disease 16. Gastric Polyps and Tumors 17. Carcinoma of the Stomach **Part V. Appendix** 18. The Appendix **Part VI. Small and Large Bowel** 19. Small and Large Bowel Structure, Developmental and Mechanical Disorders 20. Small Bowel Mucosal Disease 21. Inflammatory Bowel Diseases 22. Enteric Infections and Associated Diseases 23. Miscellaneous Diseases of the Small and Large Intestines 24. Diverticular Disease of the Small and Large Intestines 25. Small Intestinal Polyps and Tumors 26. Large Bowel Polyps and Tumors 27. The Anal Canal

Igaku-Shoin Medical Publishers, Inc., New York



IGAKU-SHOIN Ltd.
Foreign Publications Dept.

〒103 東京・文京・本郷1-28-36 鳳明ビル ☎東京(03)3817-5680-2

1992年7月 通巻第302号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田2-1-18 西阪急ビル 旬録書房内 ☎(06) 371-5395